

# 茨城県農産物販売推進東京本部情報

平成30年 12月

## 1 東京都中央卸売市場(平成30年1～11月)の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は約172万 t で、前年比5%減、金額は約5,157億円で前年比2%増となった。
- ② 茨城県産の入荷量は約20万 t で、前年比4%減、金額は約529億円で前年比1%減となった。  
(金額の内訳は、野菜約443億円、果実約85億円。前年同期比で野菜2%減、果実増減なし、平年同期比で野菜3%増、果実5%増)  
金額が【増加】した品目(前年対比)：こまつな(115%)、みず菜(110%)、ピーマン(104%)、いちご類(107%)  
金額が【減少】した品目(前年対比)：レタス類(81%)、れんこん(92%)
- ③ 茨城県の1～11月計の青果物入荷量は前年比2%減(シェア11.7%)、取扱金額は同3%増(シェア10.3%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1～11月計)			
	1～11月計	年間計	年間比	1～11月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木	
数量	H30	1,724,716		201,338	←シェア(11.7%)		10.6%	10.9%	3.5%	
	H29	1,817,537	1,994,086	91.1	210,686	236,414	89.1	10.7%	11.7%	3.2%
	(前年比)	95		96	シェア(11.6%)					
	平年値※	1,816,592	2,003,485	90.7	204,726	228,865	89.5			
	(平年比)	95		98	シェア(11.3%)					
金額	H30	515,692		52,871	←シェア(10.3%)		7.7%	6.3%	5.7%	
	H29	507,354	570,141	89.0	53,573	60,168	89.0	7.8%	6.2%	5.5%
	(前年比)	102		99	シェア(10.6%)					
	平年値※	497,732	553,898	89.9	51,156	56,083	91.2			
	(平年比)	104		103	シェア(10.3%)					

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成25～29年の5カ年平均。  
※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》  
平成29年実績(1～12月計)  
茨城県：金額シェア(10.6%)、数量シェア(11.9%)  
千葉県：金額シェア(8.0%)、数量シェア(10.9%)  
北海道：金額シェア(5.9%)、数量シェア(11.6%)

## 2 東京都中央卸売市場(平成30年11月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

( )内は前年対比

野菜類の入荷量は約28千トン(107%)、単価は145円(62%)、金額は約41億円(66%)  
果実類の入荷量は約0.3千トン(96%)、単価は889円(117%)、金額は約2億円(112%)

※前年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成25～29年同月の5カ年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)			金額(千円)				
		前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	レタス類	4,667	143%	106%	108%	147	34%	66%	61%	687,966	49%	70%
	はくさい	11,848	93%	104%	111%	44	55%	62%	69%	526,756	51%	65%
	ピーマン	1,128	140%	120%	114%	412	67%	98%	97%	464,221	94%	118%
	れんこん	858	95%	95%	94%	376	81%	85%	84%	322,569	77%	81%
	野菜類計	28,245	107%	107%	102%	145	62%	78%	93%	4,092,548	66%	83%
果実	いちご類	93	166%	128%	116%	1,731	95%	112%	104%	161,185	158%	143%
	果実類計	272	96%	97%	94%	889	117%	119%	109%	242,040	112%	115%

(野菜)

- ・レタス類 本県産は夏場の高温や台風により、10月の出荷量は平年を下回ったものの、好天だったことから11月は生育が回復しやや大玉傾向での出荷となった。後続の静岡県産なども当初は台風の影響等が心配されたが、平年並みに出荷が進みレタス全体の入荷量は前年・平年を上回った。野菜全体に荷動きが鈍り、単価は前年・平年を大きく下回った。12月は茨城県産は出荷終盤となり、後続産地が中心となる。平年より多い出荷量を見込んでいる産地もあり、単価は平年を大幅に下回る見込み。
- ・はくさい 台風の影響もあったが、好天により生育が進み、大玉傾向での出荷となった。歩留まりが良いことから業務・加工向けの引き合いが弱く、また、気温が高いため、鍋物需要も弱い状況となっている。12月も茨城県産は順調に出荷され、単価は平年より安くなる見込み。
- ・ピーマン 本県産は順調に出荷され、また、台風の影響で数量減が見込まれていた宮崎県なども、好天により生育が回復し、入荷量は前年を大きく上回った。12月は本県産は秋作が切り上がり数量は減少するが、後続産地は順調に生育しており、出荷量は平年並み、単価は平年よりやや安い見込み。

(果実)

- ・いちご類 好天のため生育が進み、出荷量は前年・平年を上回った。11月は柿や日本なし、西洋なしなどで台風の影響や前進出荷により入荷量が減少し、平年より果実全体の数量が少なく、平均単価も高めとなった。12月は各産地で順調な出荷となる見込み。

※各数値は、東京青果物情報センターおよび東京都中央卸売市場実績を基に算出